

町内の農村漁村民宿

佐賀 漁師町の「漁家民宿」

黒潮町では、町外から訪れた方に、漁家の暮らしを体験しながら、宿泊や観光を楽しんでもらおうと、漁師町の中で自宅を利用した民宿の開業が少しずつ始まっています。

佐賀で漁業体験を…

佐賀地域の明神地区・会所地区・浜町地区は、佐賀のカツオの一本釣りや日戻りの船が船出・停泊する佐賀新港の周辺にある漁師町です。

佐賀新港の敷地内には、カツオのタタキ販売所や加工工場が数多く並び、漁師のおかみさんが営業するカツオのタタキづくり体験ができる「黒潮一番館」が観光客らを迎えます。

この漁師町の元気なおかみさんたちによって、観光客へのカツオのタタキづくり体験だけでなく、家に寝泊まりし、漁家の生活そのものも体験してもらおう、漁家民泊の受け入れが進められています。

漁家民宿のはじまり

町内で初めて漁家民宿を本

格的に始めたのは、民宿「海生丸」明神努さん・多紀子さん夫妻でした。

明神多紀子さん（黒潮カツオ体験隊代表）がタタキ体験を受け入れる中で、佐賀での宿泊を希望する方が数多く現われてきたことに加え、『タタキ体験』という観光事業を、町内に訪れた方々が来てすぐに帰ってしまうものではなく、長く滞在してもらえる取り組みに広げていかなければという思いを持ったことから始まりました。明神さんは「お客さんと話はずみ「佐賀で泊まりたい」との声に「家に泊まりや」と勧めることは田舎ではよくあること。でも、好

意で宿泊をお勧めしても、遠慮されてしまうことも多かったがよ。そこで、丁度、県の取り組みで農村漁村の民泊が進められていた時でもあったので、県の地域支援企画員の方や町に協力を得て、旅館業や食品衛生関係の許可も取り、正式に民宿として受け入れてきたる体制を整えていきました」と当時を振り返ります。

7軒の漁家民宿が開業!

「目標である『通過型観光から滞在型観光』への取り組みとしては漁家民宿がただの1軒では、何の功も出ない。民泊の受け入れをいっしょにしていく仲間を増やすことが

初めの課題となりました」と話す明神さん。

周りの漁師のおかみさん仲間、声掛けし、国の補助事業での支援を受け、町外への視察や研修を重ねていく中で、嬉しいことに「やってみたい」というみんなの意思が芽生え始めました。

そして今年、「海生丸」に加え、7軒の漁家民宿が誕生しました。

旅館業法に基づいた許可を取得し、すでに、町内や幡多地域への観光や修学旅行に訪れたお客さんたちの民泊の受け入れを始めています。

7月には、今年で3回目の稲田塾（奈良県）の塾生、い



「なぶら」  
浜町 等さん・良子さん



かいせいまる  
「海生丸」  
明神 多紀子さん



「かます宿」  
吉田 純子さん



きよえい  
「魚影」  
境 文子さん



「えいと丸」  
酒井 くに子さん



「みや丸」  
明神 みやさん



「おおまち」  
明神 好久さん・妙子さん



「一本釣り」  
門田 米子さん



「山里ならではの手作り野菜や、町内のもので素朴な田舎料理でおもてなししたい」と話す山下美枝子さん。社協が行う老人給食のボランティアに参加し、料理の特訓中だそうです。

農家民宿「がかか」

漁家民宿だけでなく、町内では市野々川地区に1軒の農家民宿が開業しました。

ごっそうアキアスロンEKI DEN大会では千里国際学園の中高校生をそれぞれの民宿で受け入れしました。

7軒の民宿では、宿泊客は、鮮度抜群の魚をいっしょに調理し、食事の準備もします。ご飯の時間の会話や交流が、より漁家の生活と文化に触れてもらうよい機会となり、また、のんびりとした田舎で家庭的な時間を過ごせると好評ようです。

【農村漁村民宿に関するお問い合わせ】佐賀総合支所 海洋農林課

☎55-3115(直通)